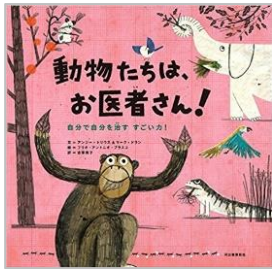


『動物たちは、お医者さん！』

自分で自分を治すすごい力！』

アンジー・トリウス&マーク・ドラン/文 フリオ・アントニオ・ブラスコ/絵 古草秀子/訳 河出書房新社



マウンテンゴリラは岩を食べるんだって。どうしてだろう？この本では、身近なイヌやネコから、聞いたこともない生き物まで、それぞれの体や命を守るための方法を紹介しています。ページの右端をめくると、カルテのようになっているのが面白く、楽しみながら知識が得られます。



『あたし、メラハファがほしいな』

さばくのくにモーリタニアのおはなし』

ケリー・クネイン/文 ホダー・ハッターディ/絵
こだまともこ/訳 光村教育図書



お母さんも姉さんも、身に着けているメラハファ。それが綺麗で秘密めいて見えるから、女の子はメラハファが欲しくてたまりません。

女の子は「メラハファがほしいな」と、周りの人に話しかけていきます。そして、しだいに、メラハファが存在する理由に気づきはじめます。



『タイガー・ボーイ』

ミタリ・パーキンス/作 ジェイミー・ホーガン/絵
永瀬比奈/訳 鈴木出版



インドの島育ちのニールは、奨学金で都会の中学校へ進学することを期待されている男の子。けれど島を離れたくない彼は勉強に身が入りません。そんな時保護区からトラの子が逃げ出し、ニールは密猟者から守ろうと探しにいくのですが…。危険な夜の森での冒険を通して島を取り巻く問題に触れ、トラの子だけでなく大切な島を守るようになりたいと成長していく男の子の物語です。

図書館おすすめブックリスト

2018年7月発行

編集・発行 砺波市立図書館



ココロふるえる本との出会いで  フル充電!!

No.5 低・中学年向け



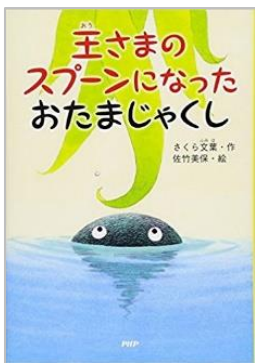
『わたしたちのたねまき』

たねをめぐるいのちのおはなし』

キャスリン・O・ガルブレイス/作 ウェンディ・アンダスン・ハルパリン/絵 梨木香歩/訳 のら書店



植物のたねは、いろいろな方法で命をつなぐ工夫をしています。フウウ〜ビュウウ〜と強い風で遠くまでたねを飛ばしたり、太陽の光でさやを温めパチン！とはじけ飛ばしたり…。そんな自然の力で行われた“たねまき”によって、この地球上の豊かな命が生まれていることを実感できる美しい絵本です。梨木香歩さんの「あとがき」にも、心を揺さぶられます。



『王さまの Spoon になった おたまじゃくし』
さくら文葉/作 佐竹美保/絵 PHP 研究所

食いしん坊のおたまじゃくしは、川辺のやなぎに「王さまの Spoon になれば、いつだっておいしいごちそうが食べられる」と教えてもらいます。北風にコチコチにかためてもらって、いざ王さまの食卓へ！ところが、たくさん食べすぎて王さまに疑われてしまい…？ふたりの友情に心があたたかくなります。絵を描いた佐竹美保さんは富山県出身です。



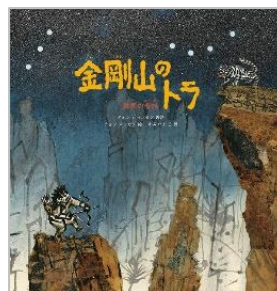
『とうふやのかんこちゃん』
吉田道子/文 小林系/絵 福音館書店

かんこの家はとうふ屋さん。お客さんが少ないので心配です。もっとお客さんに来てほしくて、かんこはとうふの絵を書いてお店の外に置きました。ある昼下がり、その絵を見てやってきたのは、味のわかるばっさまギツネと小さなキツネでした。ところが、とうふを食べたばっさまギツネは味に満足していないようで…。さあ、どうする？



『サメってさいこう!』
オーウェン・デイビー/作 越智典子/訳
佐藤圭一/日本語版監修 偕成社

恐竜が生まれるずっと前から地球に住んでいるサメ。いま500以上の種類が見つっています。みんなが知らないサメのひみつを、海にとびこんでのぞいてみよう！ポップでクールなイラストによって、それぞれのサメの特徴が写真よりもはっきりわかります。読み終わったら思わず「サメってさいこう！」と叫んじゃうかも？



『金剛山のトラ 韓国の昔話』
クオン・ジョンセン/再話 チョン・スンガク/絵
かみやにじ/訳 福音館書店

金剛山のトラ退治に行ったまま戻らなかった父の敵討ちを誓ったユボギ。10年にわたり心身を鍛え、弓の腕を磨き、強大なトラに一人立ち向かったのですが、反撃にあってしまいます。

誰の力も借りずに、幾多の困難を乗り越えていく勇敢なユボギの物語は、韓国で最も愛されている昔話のひとつです。



『そうだったのか! しゅんかん凶鑑』
伊知地国夫//写真 小学館

これなにに見える？自分の目では見えない不思議な写真は、実はある「しゅんかん」の姿です。シャボン玉が割れるとき、ろうそくの炎が消えるとき…そこに現れる思いがけない世界はおどろきの連続！「これはなんだろう？」「どうなるんだろう？」と考えながらページをめくってみてください。



『くじらじゃくし』
安田夏菜/作 中西らつ子/絵 講談社

大阪の米問屋のイトはんは、わがままで負けず嫌い。誰も飼っていないようなペットが欲しいと、丁稚の定吉に珍しい生き物を見つけてくるよう約束させます。定吉が見つけたのは、自称クジラの子だというおたまじゃくし。大事に育てて、人間ほどに大きくなった「くじらじゃくし」でしたが、やがて足が生えてきて…。